

支えあう 住みよい社会 地域から

みんじれん堺



第73号

令和7年5月発行

堺市民生委員児童委員連合会

堺市堺区南瓦町2番1号

072 (232) 5420

発行責任者 堺市民生委員児童委員連合会 会長 中辻さつ子

編集 研修・広報委員会



特集 令和6年度委員長研修から「一斉改選」を考える

いわつた
(石津太神社拝殿)

民生委員児童委員の役割

今年は民生委員児童委員の一斉改選の年です。全国的になりてが少なく、苦勞されているようです。

民生委員児童委員として日ごろから地域における見守り活動、地域住民からの相談対応など、身近な相談相手として活動することを心がけています。

地域の実情をよく知っている民生委員児童委員として、その役割を果たしていきたいと



思います。そして、近年多発する自然災害時の避難行動要支援者の対応等、地域住民と情報を共有して活動に役立てたいと思います。

これからも、みんなが安心して暮らせる地域づくりを願い、活動していきたいと思っています。

連合会副会長 八田 益雄

活動の充実 なりて確保

さらなる取り組み強化をめざして



第93回全国民生委員児童委員大会（宮崎大会）

令和6年11月20・21日、宮崎県宮崎市で第93回全国民生委員児童委員大会が開かれ、5つのテーマによる活動交流集会、1つのシンポジウムのもと参加委員は民生委員児童委員活動のさらなる充実・強化に向けて、課題の共有と今後の活動について話し合いました。

そこで、同大会に堺市民児連から参加した連合会副会長ら7人のうち2人にどのようなことを受けとめ、学んだかを「参加レポート」として寄稿していただきました。

【活動交流集会・シンポジウムの主なテーマ】

- 「高齢者・障がい者が安心して暮らし続けることができる地域づくり」
- 「災害に備える民生委員・児童委員および民児協組織としての取り組み」
- 「持続可能な民生委員・児童委員制度・活動に向けて取り組むべきこと」

まず自分が幸せであることから

特別講義では、着ぐるみの制作会社の講師の「何かのサービスで誰かを幸せにしたければ、まず自分たちが幸せであろう」という話に共感しました。熊本の「くまもん」（着ぐるみ）はこの会社の作品で、宮崎生まれということを知りました。

活動交流集会では、ご主人の定年により奈良県から宮崎県の過疎集落に移住していきなり委員になった人の活動報告があり地理もわからない知人もいない、そんな人のがんばる姿に勇気をもらいました。

連合会副会長 宮前 久数（白鷺校区）

委員活動の魅力・やりがいを伝えること

令和6年度全国民生委員児童委員大会は、宮崎県宮崎市に約2,700人の民生委員児童委員が集い、開催されました。

堺市民児連副会長として参加し、改めて主催者の民児協・社協の万全な準備とスムーズな運営に感銘を受けました。

また、二日目に参加したシンポジウムでは、なりて確保に向けての事例発表と議論を聞かせてもらい、民生委員児童委員の魅力・やりがいを伝えていくことの重要性を学んだ大会でした。

連合会副会長 木谷 利治（槇塚台校区）

第73号もくじ

- 2 第93回全国民生委員児童委員大会
参加レポート
- 3 特集 令和6年度 委員長研修から
「一斉改選」を考える
候補者選び 自治会組織が3割超
- 6 校区めぐり
堺区 5校区
中区 4校区
東区 3校区 美原区 2校区

- 西区 4校区
南区 6校区
北区 5校区
- 12 専門委員会活動報告
生活福祉委員会
高齢者福祉委員会
主任児童委員会・児童福祉委員会
御霊よ 安らかに
編集後記

特集

令和6年度 委員長研修から「一斉改選」を考える

一斉改選を控え

候補者選び 自治会組織が3割超



（写真左）基調講演で講師の新崎国広氏の話聴く参加委員

（写真上）熱心にグループディスカッション

委員長の役割などで意見交換

令和6年11月25日に、ホテルアゴーラリージェンシー大阪堺で開かれた「令和6年度堺市民生委員児童委員長研修会」。第1部の研修に80人、第2部の情報交換会に76人の委員が参加して、民生委員児童委員長の役割、各校区での取組内容等について情報交換を行いました。

研修は「ふくしと教育の実践研究所 SOLA」主宰の新崎国広氏を講師に招き、「地域共生社会の実現に寄与する民生委員児童委員長の役割と期待」をテーマにした基調講演とグループディスカッション。

数人ずつのグループワークでは、3つのテーマ（①校区委員会の運営で工夫している点、②主任児童委員との連携、③一斉改選に向けての取組

み）ごとに、ワークシートを使って校区における活動内容を発表しました。

参加した委員のアンケートでは、「研修内容は今後の活動に役立ちそうか」の問いに、「とてもそう思う」の回答が49人（62％）ありました。また、「他の校区の委員と同じテーブルでいろいろ話することができ有意義でした」と「一斉改選に向けて参考になった」の声が複数ありました。

一斉改選へ向けどう取り組むか

本年は3年ごとの全国一斉改選が行われます。

そこで、グループワークでのワークシートの3番目のテーマ「一斉改選に向けての取り組み」に

拝殿馬道から奥に北本殿を望む



表紙写真

北本殿（流造）、南本殿（春日造）、拝殿には二つの馬道（めどう）。二つある鳥居の一つには「寛永十九年」（1642）の銘文が刻まれている。すべて堺市指定有形文化財（平成9年）。毎年12月14日には境内で火渡神事「やっさいほっさい」が行われる（堺市指定無形民俗文化財）。「蛭子命（戎大神）」などを祀る。

両本殿は17世紀中ごろの建築。（堺市ホームページから）

ついて研修参加委員の記入内容をもとに、各校区の取組状況、他団体との連携などについて以下のとおりまとめました。

委員の選出方法

新任委員を含め、委員の選出方法で多かった上位のもの。

1. 自治連合会・町会に依頼 **35校区**
堺区7 中区5 東区4 西区6
南区4 北区3 美原区6
2. 退任委員が候補者を探す **13校区**
堺区3 中区2 東区1 西区4
北区3
3. 現時点（研修会当日）では、まだ取り組んでいない **9校区**
堺区3 東区1 西区4 南区1

団体との連携、会議参加等

1. 各種団体との連携、行事参加・会議への出席 **15校区**
中区2 東区2 西区4 南区1
北区5 美原区1
※土曜喫茶、語らいサロン、子育てサロン、ふれあい食事会、校区行事（夏祭り、区ふれあい祭り等）
2. 自治連合会・町会定例会で活動報告、周知活動等 **13校区**
堺区4 中区2 南区2 北区5
3. その他
校区の広報紙（誌）・ホームページに活動等の記事を掲載 **3校区**
堺・西・北区各1

各区の主な取組内容

◇堺区

年度初めに自治連合会の会議で民生委員児童委員全員の町名と氏名を紹介し、周知している。

*

校区の組織には個人名ではなく、民生委員児童委員として参加している。

*

民生委員児童委員活動PRのため、連合会や町会の会議に時間の許すかぎり参加している。

*

毎月の自治連合会定例会に出席し、各町会への連絡事項等を伝え、民生委員児童委員活動への協力を呼びかけている。

*

委員の選出について地域の人に相談しに行くが年齢的に難しいし、仕事のある人はできない。

*

今のところ具体的な行動は行っていないが、自治連合会と連携して若手の発掘をしていきたいと思う。

*

校区自治連合会や学校PTAのほか、地域内の各種ボランティア団体との連携とともに、元民生委員児童委員の個人的交流や知己を通じて適任者を調べ、候補者選定の参考にしている。



◇中区

欠員地区の自治会にお願いして、後任委員を選出してもらっている。

*

委員の選出は基本的に自治連合会が行う。候補者への声かけや働きかけは行う。改選1年前には根回しを完了するように心がけている。

*

「年齢の壁を撤去してほしい」との声がある

*

自治連合会、町内会の行事に積極的に参加する。

*

自治連合会の会議で、各自治会長あて推薦の依頼をするが、高齢化と自治会未加入者が多いので、なかなか人材確保が難しく頭をかかえている。

*

民生委員児童委員の平均年齢が70歳を超え今期の改選がどうなることか。

*

2月の自治連合会役員会で一斉改選の説明と協力をお願いする。

◇東区

校区の自治連合会定例会に、民生委員児童委員会代表として出席している。当校区は委員の平均年齢が比較的若いので、一斉改選に向けて今のところ特別な取り組みはない。

*

自治連合会や各種団体から候補者の情報や紹介をしてもらい、本人への説明は委員ないし委員長が行っている。

*

定年退任委員は改選の約1年前から所属町会長からの選任をお願いしている。任期途中で退任する場合は、自分で後任者を町会から推薦するようにしている。

*

校区内では他の団体（婦人会、子ども会等）が解散や縮小傾向にある。今後の課題として公募するとかして人選方法を考えないと将来心配。

◇南区

問題点や不安なことを一人で考えず、気持ちを軽く、つながりを大切に全員で共有できる場を作っていく。年数回、場所を変えて話しやすい所で会議をする。

*

自治会活動・福祉委員会活動など、他団体で活動されている人を紹介してもらい、民生委員児童委員について興味を持ってもらう。



◇西区

退任する委員が個別に後任者を選出する。4月から候補者を選び、依頼に委員長が同行する。校区広報誌（年2回発行）に民生委員児童委員のコラムを設け、担当委員の記事を掲載する。

*

後任委員を探す場合、校区自治連合会活動や行事の中心人物等に声かけし、候補者を決めている。

*

地域の人材に詳しい人に相談してアプローチするが、仕事を持っていたりして断られるケースが多い。委員長の大きな悩みだ。

*

一斉改選の取り組み、高齢化の波が押し寄せている。若い人々との交流で理解が得られることを期待している。特に中間世代の人にいちばん理解していただけるよう努力中。

◇北区

区役所に過去の民生委員児童委員をした人の情報をもらい、候補者選定の参考にする。

*

ボランティア・ビューローを地域会館だけにとどまらず各町会の会館でも実施し、民生委員児童委員も出席している。

*

自治会の会長に推薦をお願いしても、輪番制なので住民の様子がよくわかっていないので、候補者の紹介がほとんどない。

*

若い世代・働く世代でも、民生委員児童委員ができる環境整備が必要。

◇美原区

推薦候補者への声かけは、現民生委員児童委員と各町会で行っている。

*

退任予定の委員には、地区長と相談して委員の推薦についての準備をするようお願いしている。

*

候補者としてふさわしい人に、早くから声かけしている。

◇南区

候補者は普段ボランティア活動をしている人たちも考慮している。

*

他の委員活動はうまく流れているが、改選だけは困難を極めている。

校区めぐり

□ 堺 区

71号(令和6年9月発行)から3回にわたり連載の「校区めぐり」は、今回が最終回です。各校区、今後もご活躍を期待しています。

湊西校区 「老いるショック」

1973年の「オイルショック」以来、私は「老いるショック」に陥っています。この前教えてもらったのに、もう他人の名前が出てこない。10数年ほど前に、当時幼稚園児の孫と若草山に登るのに、おいていかれて体力の衰えを痛感。以来スポーツジムに通っているが腰痛、高血圧、糖尿病と、いろいろ病を抱えています。

私も含め、世の中ますます高齢化が進む中で民生委員児童委員は、地域の方々の高齢・障害・児童・生活等の支援をするボランティアです。

私たちの地域は古い町並みで密集している所もあります。当校区は現在13人の委員で活動しています。地域の方々の身近な相談相手として地域に根ざした福祉活動、誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくりをめざしています。春になれば若い新任委員が来られるので、「若い力」に期待しています。(山本 登三男)

湊校区 地域の良き相談者として

当校区は全1,683世帯、人口2,978人、高齢化率30.7%の少子高齢化が進む小さな校区です。

現在、校区といっても小学校は統合されてありません。委員は民生委員児童委員7人(単位町会各1人)、主任児童委員1人で活動しています。

校区民生委員児童委員7人のうち5人が新任で、まだ2年の経験です。研修・セミナー等で勉強していますが、現場での経験が大事と考えます。

これからも、地域の良き相談者となれるよう一丸となつてがんばります。(上田 健司)

大仙西校区 大仙西校区の今

当校区は1,685世帯、約2,800人の地域です。

活動としては地域の自治会や福祉委員会と密に連携し、見守り活動や相談支援を行っています。子育て・生活に関する相談などを受け、日々解決できるように努力しています。

当地域は団地が多いので、生活騒音やゴミ出しなど近隣トラブルの相談が多く、解決できない場合は行政に相談し、つないでいます。相談を受けるにおいて、第一に相談者の声を傾聴し、常に理解してもらえるよう信頼関

係を築き、この地域で気持ちよく過ごせるように心がけています。

現在、民生委員児童委員の数も減り、一人の担当する世帯数が増えています。この問題を抱えつつ、一人ひとりの人権を尊重し、みんなで助け合える地域づくりをめざしてがんばっています。(榎本 実千代)

大仙校区 笑顔あふれる子育てサロン

「3、2、1、スタート!」の合図で親御さんたちがうちわをあおぐと、小さな色花紙が空中に舞います。さっきまで子どもたちが小さく破った花紙です。子どもたちは紙吹雪の中を走り回って大喜び。これは子育てサロンの一コマです。

子育てサロンでは、保育園の先生が子どもたちの喜びそうな遊びを、保健センターの先生は時期に合った健康・安全面についての情報を提供してくれます。子どもたちが自由に遊んでいる間に、親同士の交流も深まります。

最後は「バスにのって」の曲にあわせ、親御さんの膝の上で歌にあわせて体をゆらしたりして、親子のふれあいを楽しみます。私たちも子どもたちの笑顔から元気をもらっています。(佐藤 嘉郎)

神石校区 頼られる相談役をめざして

当校区は古代の陵墓や古くからの社寺、史跡があるほか、南北に旧街道(小栗街道)が通り、長い歴史を感じる地域でもあります。

現在、約3,000世帯、約6,000人が居住しています。

民生委員児童委員は11人(主任児童委員1人含む)で活動しています。住民の高齢化率は他校区とくらべてもかなり高い地域です。

高齢者、障害者の見守り等は、校区自治会の方と協力連携を図りながら、困りごとの相談や生活上の支援等を行っています。毎週、ボランティア・ビューローを開設し、行政機関や福祉団体とのパイプ役として地域住民から頼りになる存在と思っていただけるように努めています。

また、就園・就学前の幼児とその保護者を対象に遊びとふれあいの中で互いに学べる子育て支援活動を、毎月地域会館で定期的に行っています。(米澤 二郎)

校区めぐり

□ 中 区

西陶器校区 ホットなひと時

当校区は中区の南に位置し、緑が残るのどかな地域です。

先日、富田林寺内町で見学を兼ねた定例会を行いました。大阪府唯一の重要伝統的建造物群保存地区で、富田林駅南に位置し、東西470㍍・南北400㍍の町並みを、ボランティアガイドさんをお願いして見学しました。

寺内町は中世宗教都市として誕生し、江戸時代は酒造り、材木商、木綿業等商業都市として発展したようです。現在も200棟あまり保存されています。特殊な屋根瓦や明かり取りの壁窓などガイドさんの説明を聴き、感嘆しました。時間は約2時間の研修見学でした。

当日、穏やかな天候に恵まれ、ゆっくり説明を聴くことができました。8委員全員の参加で、とても有意義な見学となり、皆さん笑顔で過ごしました。（阪口 進）

深阪校区

ずっと住みたい深阪校区めざして 手をつなごう深阪の輪

当校区は泉北ニュータウンに隣接した校区です。昭和57年に土地区画整理事業が行われ、農地から宅地へと開発が進み、新興住宅と古い民家がまじり合った町となりました。校区には多くの坂があります。

平成4年4月、西陶器小学校が過大となったため分離され、91番目の校区として深阪校区が誕生しました。現在、人口は約5,400人、世帯数は2,600戸余りになっています。

校区の民生委員児童委員は、主任児童委員を含め7人で活動しています。

毎年12月には、深阪校区まちづくり協議会の「FUKASAKA夢光」（イルミネーション）が盛大に開催されます。

民生委員児童委員と福祉委員会はふれあい喫茶、いきいきサロンなどを実施しています。ずっと住みたい深阪校区をめざして、がんばっています。（樋川 正二）



東百舌鳥校区 人と人との結びつきを大切に

当校区は、奈良時代に活躍した堺出身の仏教僧である行基が建立したとされる国指定史跡「土塔」が存在する歴史由緒のある地域です。

人口14,860人、世帯数6,945戸です。

毎月の定例会議には中第2地域包括支援センターの職員も出席していただき、情報交換を行いながら連絡連携しています。

当校区は民生委員児童委員15人、主任児童委員1人で活動しています。活動内容としては地域の会館で育児支援の「子育てサークル」、高齢者に積極的に地域と関わっていただく「ふれあい喫茶」「ボランティア・ビューロー」「お元気ですか訪問活動」等を実施して交流を深めています。

今後も、さまざまな活動を通じて地域のつながりをもって、人と人とを結ぶ安心安全な住みやすい町づくりに努力したいと思います。（奥田 千江美）



土師校区 地域の絆を強く

「ニサンサイ古墳」を北に控えた当校区は、主任児童委員を含む10人でボランティア部と連携し、積極的に活動しています。

見守り訪問活動をはじめ、いきいきふれあいサロン、ビューロー「あったかサロン」は週2回、おいしい有機栽培のコーヒーをいれ、交流の場としてたいへん好評です。ふれあい食事会、子育てサークル、介護予防の太極拳等々。

当校区は自主防災に力を入れて取り組んでいます。現在、防災士さん56人と災害時の安否確認のために、ともに協力しています。

社協・地域包括支援センターの協力を得ながら、委員長のモットーである「目配り・気配り・心配り」をみんなで心がけています。

地域の絆を強くし、安心して暮らせる町をめざし活動を続けていければと思います。（山田 洋子）

校区めぐり

□ 東区・美原区

登美丘東校区 安心安全で住みよい町づくり

当校区は、南海高野線北野田駅と萩原天神駅の線路をはさむ両側で、田畑・ため池が残る田園地帯です。北野田駅を中心に東文化会館生涯学習施設・東文化会館東文化ホールがあります。周りには高層マンションが建ち、遠くから見ると近代都市を思わせます。

当校区のモットーは、安心安全で住みよい町づくりをめざしています。その活動の中心は自治連合協議会、民生委員児童委員会をはじめ13の各種団体が加盟する校区福祉委員会です。年間を通じ、各種事業活動（7月/福祉祭り、9月/敬老の集い、10月/ふれあい運動会、11月/防災訓練）等を行い、子どもから高齢者まで楽しく参加しています。これらの行事を通じ小学校、地域の皆さまと親睦をはかり、よりよい町づくりをめざしています。

（松原 憲一郎）

登美丘西校区 校区の活性化

当校区は、今年で創立153年と堺市内でも古い歴史のある小学校や、西高野街道に沿って閑茶屋、中茶屋等南北に細長く町会があります。

昭和初期に開発された大美野地区は、大美野噴水から放射状に広がった閑静な住宅地で構成されています。

近年は宅地開発が進み、校区の単位自治会数が33町会と多く、多様な世代の人が混在するなど、活性化がみられる地域です。

民生委員児童委員活動としては、高齢で一人暮らしの家庭を訪問する「お元気ですか訪問」や「集いの会」、「サロン・さくら」「かるがもキッズ」などを行っています。これらの地域活動には民生委員児童委員だけでなく、連合自治会の各種団体と共同で運営することで横のつながりが密になっています。

また、校区広報紙『登西ネット』でグループ活動の様子や校区の年間行事を紹介し、地域の活性化につなげています。

（藤原 敬三）

登美丘南校区 権利としての福祉をすべての人に

南海高野線北野田駅から徒歩圏内の当校区は、緑豊かな環境と充実した生活利便性を両立した住みやすい地域です。

人口は約10,700人で世帯数は5,000余。高齢化率は28.7%で高齢者が多く暮らしていますが、子育て世代の人も増加傾向にあります。世代間交流をより一層進めることが求められます。

民生委員児童委員会は校区自治連合協議会に参画、結集し、福祉ケアの必要な人がしっかり必要なケアを受け

られることをめざしたいと考えています。

2024年度は、校区福祉委員会として「ふれあい食事会」を3箇所毎月1回、「子育て支援の会」を月1回行っています。

（大西 伸司）

美原北校区 地域とつながりを大切に

当校区の美原北小学校は、2022年（令和4）創立150周年を迎えました。当校は藩校として設置された丹南学校をルーツとして明治5年の創立となっています。150年の間に合併等の変遷を経て、現校名になりました。

現在の当校区は3,700世帯8,000人強で、旧村と新興住宅が入り交じり、うまく融合した校区です。

民生委員児童委員会、校区福祉委員会とともに各地域の会館を利用して「いきいきサロン」「チューブ体操」こども館での「世代間交流」、また「お元気ですか訪問」など地域福祉活動を行っています。

これからも民生委員児童委員として地域とともに歩み地域に根ざした活動を通じ常に住民の立場に立ち、支援を必要とする人に寄り添い、「住民の身近な相談相手」として誰もが安心して暮らせる地域をめざして活動していきたいと思います。

（伯井 正）

八上校区 委員皆が児童委員

現在、「八上」の名が残るのは「八上小学校」だけ！昔の河内国八上郡（^{かわちのくに}やかみのこおり）の南東角に位置する「八上池」の後にできたので、「八上小学校」なのです。

田を縫う通学路をまず小学生、続いて中学生が学校に向かい、最後に親に手を引かれた幼稚園児がバス集合場所へ。こども園送りの車、デイサービスの迎えの車と続き、どこも同じ朝の見守り風景です。

当校区は旧村と田畑を開発した住宅が混在し、さらに高層府営住宅。朝は子どもたちの微笑ましい姿が見られます。

去年から田中委員長のもと、委員皆が児童委員であるとの思いで、小学校のスクールサポーターとしてできるときに活動しています。

（堀内 寛立）

校区めぐり

□ 西 区



家原寺校区 地域の人と元気で長生き

当校区は、約2,600世帯5,000人が住み、民生委員児童委員9人で活動しています。校区には合格祈願のご利益で有名な「家原寺」、赤ちゃんから高齢者まで楽しめる「家原大池公園」、堺市唯一の救命救急センターを有する「堺市立総合医療センター」があります。

令和4年7月に、総合医療センターが主体となり校区の高齢者約100人が参加して3年間のフレイル予防事業がスタートしました。健康寿命を延ばす①現状の見える化、②支援・目標・活動の見える化、③効果の見える化の指導を受け、食事・運動等生活習慣の大切さを気づかされています。

地域の人と楽しく、希望が共有できるように9人元気に活動中です。

（石田 洋）

平岡校区 子どもから高齢者まで楽しめる校区に

平岡小学校を中心に、高層マンションやショッピングセンターがなく、2,780世帯5,862人が暮らしている校区です。

この地域にも高齢化の波が押し寄せ、一人暮らしの増加、認知症を疑われる人の増加する中、私たちはその見守りや各専門機関へのつなぎ役として、気軽に声かけし合える関係の構築をめざしています。

同小学校では「認知症キッズサポーター養成講座」を4年生で実施しています。

校区では、福祉委員会活動として毎月子育て広場「さくらんぼ」、高齢者福祉「すえなが会」では「わいわいサロン」・お茶会・お食事会など15回。自治連合会は防災訓練で炊き出し・美化活動・「交流フェスティバル」など世代間交流として有意義なイベントも行い、高齢者だけでなく、若い世代の家族参加を推進しています。

（山本 幸子）

福泉・福泉東校区 地域のつながりを作る

当校区は西区の南に位置し、南北に和田川が流れています。ほんとうに情緒のある校区です。

しかし近年、地域社会のつながりの希薄化が進む中、生活課題はますます複雑になっています。各自治会の加入者はここ10数年の間に半数になっており、旧地域は独居の高齢者と空き家が増え、自治会を退会。新しい地域は若者が大半ですが、自治会に入会しません。

そんな状況の中、民生委員児童委員は福祉活動を通してつながりを作り、安心安全な町づくりに取り組んでいます。

（三木 準一）



福泉上校区 「上村（かむら）」が一つになって あなたの笑顔をもっと、もっと

「あなたはひとりじゃないよ みんなで応援します！」
そういう思いで、高齢者の一人暮らし訪問活動や福祉行事に取り組んでいます。

当校区の一番の強みは、自治会と福祉委員会と各種団体と民生委員児童委員が一体となり活動していることです。春は「桜まつり・節句の集い」、夏は「盆踊り」、秋は「だんじり祭」、冬は「もちつき大会」などに高齢者を招待し、楽しいひと時を過ごしてもらっています。

また、子どもたちとのふれあいも忘れていません。学校と連携した「認知症キッズサポーター養成講座」「子ども見守り活動」「七夕の集い」などで、子どもたちの健全育成にも注力しています。

当校区の民生委員児童委員は8人いますが、常に地域での情報を共有し、課題解決のために一丸となり活動しています。今後も地域と一つになり、地域に根ざした活動を展開し、私たちの住む町に笑顔がもっともっとあふれるようにがんばっていきます。

（一瀬 幹雄）

校区めぐり



□ 南区・・・・・・・・

晴美台校区 文教地区

当校区では保育園・幼稚園から小・中・高・大学までそろっており、教育環境の充実した校区です。この恵まれた環境を大いに活かした様々な行事＝イベントに、各校から児童、学生の皆さんが多数参加して、毎年盛り上げていただいています。

特に、「陶器山ウォークラリー大会」や「校区マラソン大会」は、毎回盛況開催となっています。コロナ禍で中止した時期もありましたが、再開後は以前と同様に地域の人もとても楽しみにされている行事となっています。

今後も、この環境＝利点を活かして地域のコミュニケーション強化や見守り等を積極的に進めていければと考えています。
(遠藤 真砂美)

槇塚台校区 活気と調和そして前進

当校区も高齢化が進んでいる一方、新住区が開設された影響もあり、児童数は安定しています。地域活動などでは活気を感じます。さらに、整然とした住区であるうえに、遠くの山並みを見わたせる景観もすばらしく人工と自然が共存する調和のとれた校区でもあります。

民生委員児童委員は13人で、本来の活動に加えて自治連合会や福祉委員会などの活動に協力しています。このほかに、コロナ禍で閉じこもりがちの独居高齢者に集ってもらい、各自の思い出を語る会を設けたところ、盛況で継続中です。

一方で、子育て制度の充実に伴い、住民による従前の福祉活動は次のステップを模索する時だと思っています。
(尾崎 成州)

桃山台校区 自然豊かなのんびり校区桃山台

南海電鉄泉北線榎・美木多駅を降り、緑道を西に沿って歩くと右手に南区役所、西原グラウンド、左手に公園が広がり春は桜、夏に樟並木が続く自然豊かな校区です。

取り組みは高齢者向けの「いきいきサロン」「ボランティア・ビューロー」「ふれあい喫茶」、そして「子育てサロンピッコロ」と、ボランティア中心に活動しています。

最近の「ピッコロ」利用者は1歳前後なので、主にコミュニケーションの場となっています。校区の人口が減少し、小学校は全学年で6クラス。自治連合会加入も半分になり、自治会すらない地区もあります。

私たち民生委員児童委員は校区の住民、ボランティアと連携・協力し、貢献していきたいと思っています。
(菊地 智佐子)

原山台校区 明るく楽しい環境へ

月1回の民生委員児童委員連絡会で、活動問題点につき福祉委員会、連合自治会活動への協力について討議しています。

“明るく楽しい環境”をめざして社協、包括支援センターの協力をいただき、勉強会を行っています。

今後は福祉委員長、連合自治会長に「連絡会議」に出席を願い、行事への協力推進をはかり、発災時の避難行動困難者への対応等も効率よくすることを考えて、4月から実行したいと考えています。
(幸田 秀雄)

庭代台校区 とともに歩む地域社会をめざして

当校区は少子高齢化が進む中、子どもも大人も高齢者も、みんなで楽しくともに歩む地域社会をめざしています。

年間を通しての行事は春の「新入生歓迎会」から始まり、1月の「庭代台二十歳のつどい」までたくさん実施しています。その中でも三大行事としているのが「子どもまつり」「秋まつり」「防災訓練」です。各行事は自治連合会、福祉委員会、各種委員会が協力して運営しています。民生委員児童委員もその一翼を担っています。

特に、「秋まつり」では音頭取りが会場を盛り上げ、ラストで泉田中の勇壮なだんじりパフォーマンスで幕を下ろします。また、「防災訓練」は心肺蘇生法から始まり、多くの訓練を参加者全員に受けてもらいます。毎年150人くらいの参加者があり、住民の関心の高さがわかります。これからも住民がみんなで力を合わせ、ともに歩む地域社会づくりに努めていきます。(戸井 武彦)

御池台校区 何もなければ何とかなる！

駅から遠く、お店も少ない。コンビニもなく、高校もない。何もなければ、きょういく（今日行く）ところときょうよう（今日する用事）がある。何もなければ何とかなる……誰にもあったかいコミュニティをめざしています。そのため福祉活動はとても活発です。

いきいきサロン、子育てサロン、物忘れ予防教室、ボランティア喫茶、ふれあいお食事会、みんなで歌う会、映画サロン、元気あっぷ教室、筋力up教室、歩こう会、声かけ（お元気ですか訪問）、レインボー（障害者保護者の会）、コーディネーターセミナー、健康麻雀、花のボランティア。

いろんな活動を通じて、さまざまな交流が生まれています。どんな人にも住みやすい町にしたいと思います。

(比嘉 和美)

校区めぐり

□ 北 区

金岡南校区 我が校区の宝物「南っ子」

当校区は元々金岡校区であり、40数年前に金岡校区・金岡南校区として新しくスタートした校区です。そのため、当校区には寺社仏閣がゼロとたいへんめずらしい。

最近はU R都市機構の再開発等により、高層マンションや戸建て住宅が建設され、田畑等がなくなりつつあります。また、交通手段の利便により土地価格が大幅に上昇しています。

近年、少子高齢化のなかではありますが、当校区の自慢は児童数が年々増加傾向にあることです。令和5年度には1,100余人であり、学年別にみると5～6クラス。堺有数のマンモス校で、学校行事は全校一斉実施がむずかしく、運動会は学年別に数回実施。朝礼はオンライン朝礼、教職員60数人で工夫しながらされています。

特に、登下校時における混雑する交差点の見守り活動をされている人々はたいへんです。それに反して、近年「子ども会組織の減少」「PTAの弱体化」、残念に思います。

我が校区の宝物「南っ子」を大切にし、将来の担い手育成のため、地域が一丸となって育てていくことに期待しています。
(佐々木 和郎)

北八下校区 安全で明るく楽しい町を目標に

当校区は1957年(昭和32)、堺市と合併し堺市としての歴史は浅い町です。大泉緑地公園の東側、堺市の東端に位置し、お隣は松原市になります。

校区の中心にあたる中村町には北八下小学校、八下中学校があります。一部では無くなりつつある青色防犯パトロールも各町内を巡回し、児童の安全に貢献しています。

また、マスコットキャラクター「やしモン♪」も誕生し各種イベントや行事を盛り上げています。緑が多く静かで子育て世代に人気の校区で戸建て住宅、老人介護施設が増えています。

「ちびっこペンギン」や「ぷちっとまと」の子育てサークルもあり、途絶えていた「お元気ですか」の訪問活動も再開し地域福祉の向上に努めています。(巽 貢)

百舌鳥校区 百舌鳥校区の活動について

当校区はJ R百舌鳥駅と南海高野線百舌鳥八幡駅の間にあり、校区の中心には百舌鳥八幡宮があります。「月見祭」では勇壮なふとん太鼓が奉納されます。

地域会館では高齢者を対象とした「いきいきモズの会」ふれあい喫茶、子育て世代を対象とした「ミニモズの会」を月1回行っています。



また、各町でもいろいろなイベントがあります。昨年は梅町の消防訓練で、子ども食堂「つなぐば」が参加者にカレーライスを振る舞いました。

祭りがあるから、町内がまとまりやすいのかどうかはわかりませんが、今後も民生委員児童委員は校区や各町のイベントに参加し、誰もが住みやすい町づくりに貢献したいと思います。
(石田 信文)

西百舌鳥校区 つながり^{ごびょうやま}を大事に

当校区の中央に、世界文化遺産の御廟山古墳^{ごびょうやま}といたすけ古墳があり、近くにある百舌鳥八幡宮の「月見祭」に参加して、つながり^{ごびょうやま}を大事にしている地域でもあります。

福祉委員会、民生委員児童委員会では、お元気ですか訪問活動、ボランティア・ビューロー、ほのぼのサロンのほか、いきいきサロンではボランティアによる催し物・交流・喫茶があり、高齢者のみならず幅広い年齢層にも好評になっています。

子育て支援では0～3歳児が自由遊び・絵本・ママストレッチ・助産師さんの育児相談や交流を楽しんでいます。

ボランティアさんの協力を得て地域の人が活動に参加し、生き生きと過ごしていけるようがんばっています。

(増田 幸恵)

中百舌鳥校区 笑顔で挨拶、感謝と親切の町 なかもず

イノベーション創出拠点の中百舌鳥は、10年後には駅前の様子がすっかり変わっています。

当校区は6自治会からなり、15人の民生委員児童委員が活動しています。校区の行事、福祉委員会の活動支援として、毎月のふれあい喫茶、いきいきサロン、お元気ですか訪問等、年に2回のふれあいの集い、おひな祭りの集いと高齢者対象の活動、子ども対象には餅つき大会ゲーム大会、模擬店への参加応援、小学校での5年生と未就学児との「あそぼう会」、1年生との「むかしあそび」等、地域住民相互の交流活動に寄与しています。

(水野 雅司)

◆生活福祉委員会

生活保護制度など研修

1月17日、堺市総合福祉会館で令和6年度生活福祉委員会研修会が17人の委員が参加して開かれました。

研修テーマは、①生活保護制度の概要や受給までの流れなど、②堺市におけるフォローアップ支援の取り組み（コロナ特例貸付を利用した世帯への支援）。

講師は、それぞれ堺市生活援護管理課の土居 愛氏、堺市社会福祉協議会地域福祉課の小川健太氏・永井千恵氏。

参加した委員からは、「自分の担当地域に該当者がいないため、今まで制度について理解できていなかったの、研修テーマにとりあげてもらってよかった」とか、これからの研修テーマとして、「精神障害や知的障害者の特性や対応について学びたい」などの声がありました。

◆高齢者福祉委員会

映画鑑賞で老老介護のあり方学ぶ



あいさつする天見文昭
高齢者福祉委員会委員長

2月18日、高齢者福祉委員会は堺市総合福祉会館で令和6年度研修会を開き、222人が参加しました。同研修会は堺市民児連の理事・監事研修もかねており、映画「ぼけますから、よろしくお願いします〜おかえりお母さん〜」を鑑賞しました。

専門委員会活動報告

2018年に放映された「ぼけますから、よろしくお願いします」の続編として制作されたこの映画は、アルツハイマー型認知症を患った妻を98歳の夫が介護する日々を、夫婦の娘で映画監督の信友直子氏が今回もみずからカメラをまわして撮影しました。

参加者からはたくさんの感想や意見が寄せられ、大きな反響がありました。「地域の人にも見てもらいたい」「笑顔が多い介護。こんな家族でありたい」「お父さんの優しさ、強さ、お母さんへの愛、とてもすばらしかった」など。「今後の活動に役立つか」の問いに60%超の委員が「とてもそう思う」と答えています。

◆主任児童委員会・児童福祉委員会

不登校・いじめをテーマに研修

1月30日、主任児童委員会は、堺市総合福祉会館で児童福祉委員会の委員も参加して合同研修会を開きました。



研修会のテーマは「堺市における不登校児童の現状と対応について」。

堺市いじめ不登校対策支援室の小林伴幸氏、堺市教育支援教室の野津 喬氏・宮本浩光氏・藤岡宏俊氏を講師に招き、年々増加する小中学校における不登校児童・生徒数の推移や、堺市教育支援教室の概要とその取り組み、「いじめ問題への対応」動画を視聴したりして理解を深めました。

御霊よ 安らかに

令和6年12月29日没

新金岡校区 布引 ゆかり 様

令和7年1月2日没

深井西校区 北埜 篤 様

編集後記

手にすることが待ち遠しい『みんじれん堺』をめざして、編集会議はかんかんごうごうの議論。本誌はわたしたち民生委員児童委員活動のバイブルだと思っています。各委員は異なった環境で活動していますが、活動への思いに差はありません。

その気持ちは本誌のそこここにある、特に投稿記事「校区めぐり」は厚労省から委嘱された委員を抜け出し、普通の人になって顔の見える関係づくりに努められ、地域

とのつながりの強さが書かれています。また、文中に表現されている地区の様子は、読み手の皆さんにも目に浮かんでくるものがあるのではと思っています。

一斉改選を迎える年度として、これらの魅力を推薦委員と共有し、新たに民生委員児童委員になられる人に伝えていただければと思っています。

野田校区 家田 佑